

熊本労災病院のHPを訪れていただきありがとうございます。

今年も残すところあとわずか、という時期になりました。まだ暑い頃に、八代インターアクトクラブの中高生が正面玄関に植えてくれたマリーゴールドは、寒空の中も黄色のかわいらしい花が続き、イルミネーションに映えています。労災病院には、もう一つ高校生の活動が継続しているものがあります。受付と外来をつなぐ廊下(ホスピタルギャラリー)に飾られている、白百合学園高校写真部の作品です。約3ヶ月程度で入れ替えながら、数々の受賞作品を含めて清新で時にほっこりする、若者らしい写真が並びます。長い廊下でご不便をかけていますが、写真で和んでいただけたらと思っています。

新型コロナウイルス感染症(COVID19)はようやく下火となってきました。ただ、私たち医療者に限らず、宴会への懸念はまだまだ大きいようです。11月には外科のみんなで集まって久しぶりの飲み会をして盛り上がりましたが、例年の、病院や病棟単位の宴会は誰も言い出しません。「病院執行部が率先して宴会を先行実施してくれ」という職員のご意見もあり、個人的には今の環境なら大丈夫とも思いますが、もう少しの我慢かな、とも思います。先日、熊本大学関連の病院長が対面で久しぶりに集まる会がありました。講演会の後に行われる懇談会は、「飲食なし」でした。それでも画面越しではなく直接お話できる機会は貴重でした。来年4月14-16日、熊本で第122回日本外科学会総会が予定されています。地震からちょうど6年でもあり、会場も、サクラマチに新装された熊本城ホールなどになります。会長の馬場秀夫熊本大学病院長がプログラムを練られています。このままの感染状況なら多くの方が熊本に実際に来られることでしょう。私の知り合いにも「ホテルを予約したから歓待してね」と早々に連絡してきた先生もいます。恒例の全員懇親会はどうなるかわかりませんが、少なくとも同好の士で旧交を温めることはできそうです。熊本の、外科医のみならず医療・医学界に大きなイベントとなることでしょう。

COVIDに影響されて、全国でがんの検診者が減り、進行がんが増えるのではないかと懸念されています。先日の院内医師全体のカンファレンスでも、進行乳がんの患者さんの例が取り上げられました。がんという宣告が怖い、周囲に知られたくない、その後の生活や仕事をどうしよう、というような受診遅れの理由に加え、ここ2年ほどは、COVIDによる病院離れが加わったことになります。しかし、昨今、新たな薬の開発など治療手段は格段に増え、たとえ進行癌でも治療の期待ができる場合もでてきています。提示された症例も、多発転医があってもすべて軽快されていました。何より、がんと診断されることで初めて、そのつらさをみんなで共有し、治療のみならず仕事や生活への最大限の支援を利用するなどして、ひとりで抱え込む悩みから解放されることはよく経験されることです。労災病院には、そのような支援体制も整っています。遠慮無く、関連の診療科を受診してください。

COVIDに隠れて、「働き方改革」の対応も遅れています。2024年には、医師の連続労働には最低9時間のインターバルを作ることや時間外労働に上限時間を設けることなどが法的に規定されます。すでに、医師へのタイムカード導入、当直明けにはなるべく早く帰る、などの対応はやってきました。休日などに行っていた患者家族への説明も、原則、時間内に行うようお願いするポスターも県内の病院で足並みをそろえて張り出しました。複数主治医制、医師の仕事の一部を肩代わりする看護師(特定看護師)の育成、なども始めています。院長自身の意識改革も問われています。私は、超勤時間など念頭にない中で育ってきており、正直なところ、違和感は正直否めません(などという院長は今や失格なのですが)。ICUの重症患者横に椅子を持ちこんで座り込み、ようやくポタッと出てくる尿に一喜一憂しながら徹夜し、朝陽の中で「乗り切った」という思いに歓喜する、みたいなことを懐かしく思い出しますが、そのような経験を「美談」として次世代に伝えることはもう許されません。自己満足、言ってみれば、「お百度参り」(もうこれも死語でしょうか?)に近いものとされそうです。亡くなられたかたのお見送りは、昔から主治医や看護師がむしろ望んで参加してきたものですが、深夜に及ぶことも多く、これも超勤削減の要素に数えられています。一見「無駄」と思える行為の中に、自省し熟考する意義は多岐に含まれているのですが、一刀両断に削減すべき超勤時間として処理されるのは寂しい気がします。しかし、「2024年問題」は待ったなしです。そんな中でも、絶対に、救急医療体制は死守せねばなりません。医療者人口も減少し、高騰する医療費の中で医療人の雇用も制限されます。医療人とともに、患者様の意識変革も求められることとなります。

とはいえ、地域の皆様あつての労災病院です。これからも、皆様のご意見やご要望を活かしつつ、時代に即した良質で信頼される医療を提供する理念に変わりはありません。来年は、ぜひ移動や集会の自由=基本的人権が確保される年になってほしいと思います。皆様、良いお年をお迎えください。